2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	渡辺 弥生
最終学歴	学　位	専門分野
愛知医科大学大学院看護学部	修士	老年看護学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

本学の精神である「真面目」を念頭に、学生が、学ぶことが楽しいことであり、今後の人生に生かしていけるよう、誠実に教育を実践する。

信頼される人格の形成のため、自らも学生に信頼されるように教育に取り組み、社会人として社会の役割を果たすため「感じの良いコミュニケーション能力」が身につくよう学生との対話を大切にする。

（目標）

・「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を念頭に、教科の目標の達成および資格取得（健康管理士）を促す。

・関心、興味のもてる講義を展開し、知識の定着を目指すとともに講義への出席率を高める。出席することでの評価はしないが、出席したほうが学びがあると考えられるような方法で授業を展開する。

・人間健康学部で学ぶ意味は健康に毎日活動することであり、健康観を育み、知識を高める。

・「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを意識し一人一人の学生の思いを尊重し、目標が見えてくるよう関わることで、将来の目標が見えるようにする。

・学生に対してユーモアや親しみやすさをもち、教員が「真面目」に取り組むことで学生にも自ら「真面目」に取り組む姿勢を持ってもらえるようにまた自信をもって、社会で活躍できるよう、漢字の良い態度の育成を目指し関わる。

・「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を念頭に自らが謙虚にまじめに教育に専心する。

（方針）

医療、看護、健康系の科目においては、ヘルスリテラシーの重要性と健康習慣、健康観を育み実践できるように具体的な教授内容に加え、実習を取り入れ、より学びの内容を身につけ、生活に生かしていけるようにする。

・複数回のレポート課題により、学生の疑問に積極的に答え、よりコミュニケーションを重視していく。

・イメージが難しい医療や看護の現場についてはDVDなど効果的に活用する。

・ゼミでは、学生に主体的な学びを促すため、小グループの活動を行う。

・ゼミでは、学生のアイディアを活かし失敗を恐れず、チャレンジできる環境を整える。

（計画）

・チームズの活用をし、学生の疑問に答える。

・授業内の小テストやレポートから学生の習熟度を測り、次の授業に生かしていく。

・授業に出ることがまず重要と考えるため、課題への評価は毎回行う。

・授業資料は記入式にすることで授業内試験に活用し、授業の重要性を認識し出席率を向上させる。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

環境保健論、医療概論、養護概説、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

健康科学概論、看護学、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

計画通り実践した。

○作成した教科書・教材

人間健康学「第 5 章日本の健康問題について考える―健康とは何か、健康の意義」

○自己評価

学生との対話を重視し欠席が少なくなるよう取り組んだ。欠席は 15%程度に落ち着いていたように思う。質問が多く、終了時に前回の課題を取りに来るなど積極的な学生も見受けたため、コミュニケーションを心がけたことで多人数の講義形式においても授業態度は良くなったと考える。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

１．一般大学学生の健康観と健康習慣

２．看護師の誇りに関する研究（仮）

３．日本の少子化と看護の役割　　～母性看護の取り組みを考える～

４．大学生の少子化問題への関心と養護概説での学び－養護概説受講後の学生へのアンケート調査から授業内容を検討する－（仮）

○目標・計画

（目標）

１．学生の健康習慣・健康観の特徴を理解し、健康課題を明らかにするとともに、健康への関心を知ることで今後の講義内容を精選するための示唆を得る。

２．主観的職業威信、自分の職業に関する誇りの枠組みを用いて、臨床看護職に対する「誇り」に関わる思いを明らかにする。

３．日本での母性看護の取り組みを紹介し、経済や職場の問題だけでなく安全、安心な産科医療、また子育てしやすい地域対策の現状を知り、少子化問題の改善策を看護の立場から検討する。

４．養護概説を学び、少子高齢社会の中で、学生が将来の育児への関心を持つ機会となるような授業内容とするため、学生の育児への興味関心について授業終了後アンケート調査を行う。

（計画）

１．　論文作成　紀要投稿予定（2022.9 月）

２．（１）データ収集、分析

（２）論文作成し、来年投稿予定

３．論文作成　叢書へ投稿（2022　7 月）

４．データ収集　分析　論文作成し 2023 年 1 月愛知県看護教育学会へ投稿予定

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・渡辺弥生　地域創造研究叢書 34 高齢者の保健・福祉・医療のパイオニア
「高齢者の認知症予防とケアー家族は何ができるのか―」2020

・渡辺弥生　地域創造研究叢書 35 少子高齢社会のヒューマンサービス
「日本の少子化と看護の役割」2022

・

（学術論文）

人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の健康習慣と健康観の状況　東邦学誌第 51 巻第 2 号 2022　12 月

・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージ　最終講義後の調査」愛知県看護教育研究学会第 24 回　2021

・渡辺弥生、竹下美恵子　「人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の医療イメージ」東邦学誌第 48 巻第 2 号　2019

・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージー看護学の初回講義後の調査―」愛知県看護教育研究学会第 23 回　2020

・渡辺弥生、野口健太、麻續恵　「看護を学ぶ社会人学生の臨地実習での思い」愛知県看護教育研究学会第 22 回（p23～29）2019

・渡辺弥生、野口健太、柴田竹晴　「基礎看護技術テストにおける模擬患者体験をした卒業生の思い」愛知県看護教育研究学会第 21 回（p32～37）　2018

・渡辺弥生、野口健太、三井美智　「看護専門学校における学生への欠席に対する指導 A 県内看護専門学校の教務主任の調査」　日本看護学会（教育）（p43～46）　2018

・野口健太、島田美奈、渡辺弥生、井本英津子　「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況　講義･演習に焦点をあてて」　愛知県看護教育研究学会第 19 回(p45～52)　2016

・野口健太、林由利江、島田美奈子、渡辺弥生　「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況　臨地実習に焦点をあてて」　愛知県看護教育研究学会第 18 回（p35～43）2015

・井本英津子、島田美奈子、渡辺弥生　「看護専門学校における海外研修旅行の取り組み　旅行後のアンケート分析」　愛知県看護教育研究学会　第 18 回　（p18～27）　2015

（学会発表）

・渡辺弥生、竹下美恵子　人間健康学部で「医療概論」を履修する学生の―医療イメージ　第 28 回愛知県看護教育研究学会

・渡辺弥生、野口健太、麻續恵　「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感　医療職の常識と一般職の常識」　日本看護学会（看護教育）2018

・渡辺弥生、野口健太、麻續恵　「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感　実習評価に焦点をあてて」　愛知県看護教育研究学会第 7 回　2018

・渡辺弥生、野口健太、三井美智　「看護専門学校における欠席状況に関する調査　欠席を少なくするための取り組み第 1 報」　愛知県看護教育研究学会　2016

・渡辺弥生　「病棟看護師の高齢者への退院支援に関わる行動と高齢者理解とその関連要因」　日本看護学会（管理）　2016

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本看護学会　日本看護教育学会　日本老年看護学会　愛知県看護教育研究学会

○自己評価

コロナ禍で直接参加はできなかった。愛知県看護教育研究学会においては大会時進行役を務めた。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

保健の観点から学生と教職員の健診の実施、感染予防を感染対策委員会と共に実施する。

学生相談センター長としてセンターの運営、役割を全うする。

重点目標を達成するための課題を整理し実施計画を作る。解決策の実行

（計画）

コロナ感染症対策の実践を委員会、事務担当者と共に行い学内での感染が最小限に収まるよう取り組む。

相談に関する問題やカウンセラーとの連携を密にしていく。合理的配慮学生への対応の実施

学生相談センターの拡張、環境整備に向けた計画案の作成を行う。

○学内委員等

保健・学生相談センター運営委員会

○自己評価

学生にとって安らぐ場所となるよう新しいセンターの活用に努力した。

相談学生では、困難な事例があったが、チームワークを駆使し対応した。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

１．ゼミ活動を通し医療への貢献として献血などに協力する。（コロナ感染症に配慮）

２．看護学の発展のため、他学校への講義を行う。

３．愛知県看護教育研究学会理事として学会運営への参加

（計画）

１．専門演習での学びを通し血液センターでの献血への協力を行い、医療への貢献をする。

２．他大学、看護専門学校の講義や相談を受けることで、看護の発展に貢献する。

３．今年度は研究発表における座長を行う。

○学会活動等

愛知県看護教育研究学会においては大会時進行役を務めた。

○地域連携・社会貢献等

看護師の誇りに関する研究（仮）では愛知県内の看護師らと意見交換をし取り組んでいる。

○自己評価

研究活動も地道に行っている。コロナ禍でインタビューなど目標より人数が少なくなってはいるが、2023 年度の投稿に向けて進めることができた。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

パソコンの操作など今までより高いレベルでの操作方法を学ぶ。

Ⅵ　総括

本年は対面授業が再開したため。より効果的に学べるよう努力した。

研究活動もコロナ禍で困難な面もあったが、県内の看護師の協力により進めることができた。

センターの活動も困難な事例があったが、チームワークを駆使し対応した。

以　上